

見えない庭

細部の集合による包容された空間

指導教員 吉松秀樹教授 印

7AEB1208 澁谷 年子

1. 問題意識「冷たい都市」

巨大な高層ビルや看板、多くのすれ違う人々。それらには他人のような冷たさを感じる。しかし、その中でも時より「やさしさ」を感じる。その瞬間があるからこそ、私達はまた都市へと向かうのではないだろうか。

2. 調査「都市におけるやさしさ」

「都市におけるやさしさ」とは、お互いの気遣いであったり、ふと懐かしく親しみやすさ感じさせ、大きな都市の中に心地の良さを与えてくれる。それは、都市の合間に点々と存在している (Fig.1)。



Fig.1 都市の合間にある「やさしさ」

3. 分析「人を包み込む空間」

やさしさは、見える部分として私達の意識の中に入ってくる。しかし、その都市空間全体を認識するには、細部だけでは見えてこない、見えない。人はその細部を追う事によって空間の全体を把握し、親しみのある居心地の良い空間に包み込まれているように感じているのではないだろうか (Fig.2)。



Fig.2 細部から全体を認識する

例として、京都府左京区曼殊院書院をあげる (Fig.3) (Fig.4)。

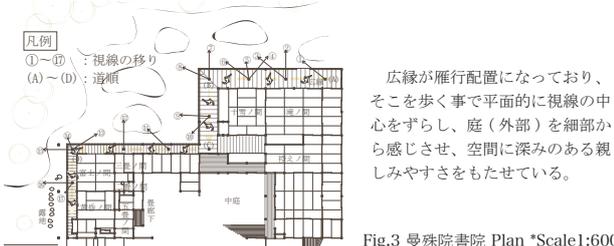


Fig.3 曼殊院書院 Plan *Scale1:600

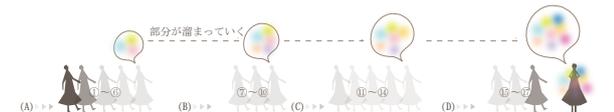


Fig.4 ①～⑩までの視線の移り

細部から全体を感じさせることは、空間に親しみやすさを与える。それはまるで自分の庭のような感覚、何も無いけれど人はそこに「見えない庭」を感じるといえる。

4. 空間構成「細部を連続させる」

分析から細部を連続させて空間化していく。1つのボリュームを細部に展開し (Fig.5)、それを連続して重ね合わせていくことで、平面・断面的に小さな空間の集合ができ、細部に包まれているような状態となる (Fig.6) (Fig.7)。



Fig.5 ボリュームを細部に展開

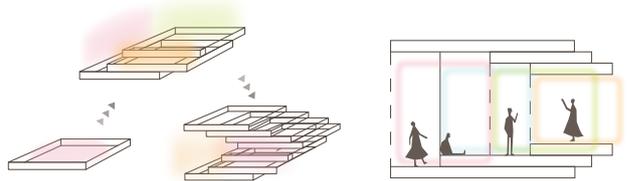


Fig.6 細部を重ね合わせる

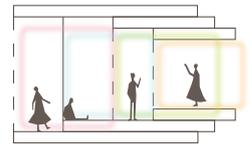


Fig.7 層による空間の重なり

5. 提案「細部から考える」

空間構成モデルを用いて、住宅地におけるギャラリー設計に応用する。通常建築は全体から細部へと考えていくが、逆に細部から考えていくことで、空間に固定感 (冷たさ) をなくし、親しみのある包まれたような空間となる。細部から作られたギャラリーは住宅の延長のような展示空間となり、街にとけ込んでいく (Fig.8) (Fig.9)。

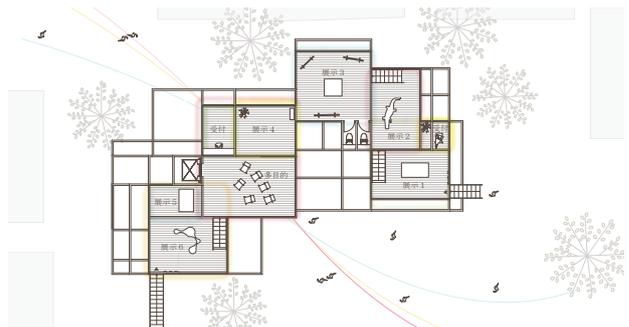


Fig.8 11th layer Plan *Scale1:500



Fig.9 模型写真